

廃棄予定であった過去の公式戦用ジャージの紙袋化による循環型社会実現のためのプロジェクト

早稲田大学ラグビー蹴球部は、

廃棄予定であった公式戦用ジャージをショッパー化（紙袋に変換）することで、環境負荷が低減された循環型社会・持続可能な未来の実現にチャレンジしています。



本プロジェクトは、“早稲田ラグビー”の象徴として広く知られる「赤黒ジャージ」を再利用し、ショッパー（紙袋）を制作することで、循環型社会・カーボンニュートラル・グリーントランスフォーメーション（GX）・サーキュラーエコノミー・環境負荷低減への関心を高め、持続可能な未来の実現に貢献する取り組みとなります。今後はラグビー蹴球部の活動にご賛同いただける企業のロゴ（コーポレートアイデンティティ）を紙袋に掲載することを通じて、ラグビー蹴球部への新たな支援の輪を広げていきたいと検討しております。なお、当該ショッパー（紙袋）自体は販売する商品ではなく、「早稲田ラグビー」グッズの販売時等の無償提供展開を予定しております。

従来までの課題



- ・ “早稲田ラグビー”の象徴として広く知られている「臙脂と黒」の公式戦用ジャージ（通称 赤黒ジャージ）は、公式戦および非常に重要である試合のみ着用するジャージです。
- ・ 公式戦や定期戦でのみ着用するジャージは、試合を重ねる中で損傷や劣化が生じることあり、一定の使用期間を経た後は保管されるものの、再利用が難しい場合には焼却処分される状況がありました。

社会課題解決への貢献



気候変動へのアクション

カーボンニュートラル

サーキュラーエコノミー

- ・ ラグビーは“冬のスポーツ”と言われておりますが、年間を通じて練習や試合が行われております。近年の急激な気温上昇により、練習時間の短縮、試合時間の変更など、年間活動計画の変更を余儀なくされており、気候変動は早稲田大学ラグビー蹴球部にとっても無視できない課題となっています。こうした背景を踏まえ、ラグビー蹴球部は「気候変動」という社会課題に対するアクションとして、本プロジェクトを開始しました。
- ・ 今回のプロジェクトでは、CFP（カーボンフットプリント/原材料調達から生産から廃棄・リサイクルに至るまでの全ライフサイクルにわたって排出する温室効果ガスの総量）の算出には至っておりませんが、衣類を焼却廃棄処分するよりも、廃棄用衣類を原料とした紙への変換・リサイクルの方がCO2排出量が削減されると言われております。 *1
- ・ 早稲田大学ラグビー蹴球部は事業者ではございませんが、本プロジェクトによりGHGプロトコルによるサプライチェーン排出量 Scope3・カテゴリ 5「事業から出る廃棄物」のCO2排出量削減に貢献することとなります。 *2

エコバッグではなく「紙」に変換する理由



- ・ エコバッグは再利用可能で、紙袋よりも一般的には耐久性が高くなりますが、エコバッグの製造にはプラスチックが使われており、石油由来の素材となります。
- ・ 一方、紙袋はバイオデградラブル性（自然界での分解されやすさ）がエコバッグよりも高いため環境負荷が小さくなっております。
- ・ 加えて、“赤黒ジャージ”をより感じることができるよう「紙」への変換を行うこととしました。大学日本一を目指した選手・部員の“勝利への執念”“仲間への信頼”そして“未来への希望”が刻まれた赤黒ジャージの紙袋とともに応援頂ければ幸いです。

本プロジェクトにおける紙袋は、TOPPANクロレ株式会社さんにて製造を行っています。

参考文献 出典：

*1 廃棄物再生を通じたCO2削減に関する実証研究—循環型社会の実現に向けて— <http://repository.kyusan-u.ac.jp/dspace/bitstream/11178/8463/1/shohou56-4.pdf>
*2 サプライチェーン排出量の算定と削減に向けて https://www.env.go.jp/earth/ondanka/supply_chain/gvc/files/SC_syousai_all_20230301.pdf